

山陽小野田市厚狭川河口域において採取された
シャミセンガイ属の死殻

古 熊 俊 治

「山口県の自然」第79号（2019年3月）別刷

山 口 県 立 山 口 博 物 館

山陽小野田市厚狭川河口域において採取されたシャミセンガイ属の死殻

古熊 俊治¹⁾

1. はじめに

腕足動物のシャミセンガイ類は太古から姿を変えていない「生きている化石」として知られている(濱田 1975)。シャミセンガイ類は青森県陸奥湾より以南の日本沿岸に広く分布していたが(倉持ほか 2001)、現在では生息域が減少し、各県で絶滅危惧種や準絶滅危惧種に指定されている。山口県内の分布としては、瀬戸内海側の限られた地域(樫野川河口周辺の山口湾及び秋穂湾)においてミドリシャミセンガイ *Lingula anatine* がまれに生息している(環境省 自然環境局 2007)。また、最近では下関市千鳥浜においても、1 個体だけの採取ではあるが、同種の生息が確認されている(久志本 2016)。以上のように山口県下におけるシャミセンガイ類の分布は限定的であり、県内のその他地域での報告や知見はほとんどない状態である。

今回、山陽小野田市の厚狭川河口域の干潟においてシャミセンガイ属の死殻が複数個体分打ち上げられているのが確認された。山口県におけるシャミセンガイ類の分布を考察する上で貴重な知見だと考えられるため、本稿で報告する。

2. 採取記録

2018年11月24日、山陽小野田市厚狭川河口域左岸側の干潮時に露出した砂泥質の小さな砂州状の地形地点から(N 33°59' 39", E 131°8'42")、それぞれサイズの異なる離弁した死殻を 5 点採取した(図 1 ~ 3)。

3. 殻の特徴

5 点中 3 点は全体が残っており、殻長は 15.2 ~ 20.5mm で、殻幅は 7.2 ~ 10.9mm であった。残り 2 点は断片であり、殻長は分からないが、殻幅は 11.5 及び 11.8mm であった(図 4)。殻は薄く、表面は滑らかで、同心円状の成長線が確認できる。殻の前端は偏平状に広がり、後端には殻頂が位置し嘴状に尖る。打ち上げられた死殻であるため、色は退色しており元の色彩は不明である。シャミセンガイ属は外部形態か



図1 採取場所

1) FURUKUMA, Shunji 〒759-0207 宇部市際波409-24



図2 厚狭川河口方向を採取地点より撮影

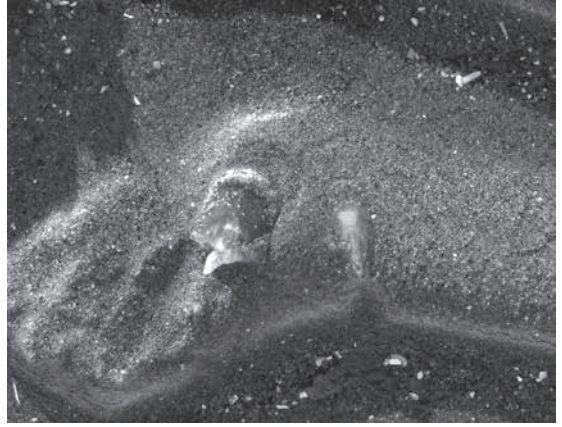


図3 サンプルング時の状況



図4 厚狭川河口域において採取されたシャミセンガイ属の死殻。スケールは10mm。

らの同定が難しいと言われており、本稿ではシャミセンガイ属の一種(*Lingula* sp.)とするのに留める。

4. 考 察

環境省のホームページ「生物多様性の観点から重要度の高い海域」(環境省 自然環境局)によれば、今回の採取地点を含む沿岸域は小月干潟・厚狭川河口周辺(15804)に区分されている。この区域はヤマトシジミの生息地であり、小月干潟は大規模な干潟として知られている(環境省 自然環境局)。また、厚狭川河口域はシマヘナタリ、クロヘナタリ、ワカウラツボ、センベイヤワモチなど全国的にみて希少とされる貝類が豊富に生息している(環境省 自然環境局)。しかしながら、シャミセンガイ類の生息は確認されていない。最近、小月干潟の区域である下関市千鳥浜でミドリシャミセンガイが1点採取され、偶発的な分布もしくはより沖合での分布の可能性が示唆された(久志本 2016)。

今回、死殻ではあるがサイズの異なる複数の標本が山陽小野田市の厚狭川河口域で採取された。その保存状態及び外部形態での同定が困難なことからシャミセンガイ属とするに留めた。山口湾など近傍海域における分布からこれらは恐らくミドリシャミセンガイではないかと推測されるが、瀬戸内海ではドングリシャミセンガイやウスバシャミセンガイなど他種の生息も明らかになってきており(吉郷 2004、倉持ほか 2013、小林ほか 2018)、今回の採取物のような破損や磨損をとまなう死殻では種についての言及はやはりできない。

シャミセンガイの殻は薄く脆いため、今回の採取物は遠方から漂着したものとは考え難く、採取地点から近い場所由来のものと考えられる。また、十数分程度の短時間での調査・採取にも関わらずサイズの違う複数個体の死殻が得られたことから、久志本(2016)の記録も加味すると、本地点を含めた小月干潟・厚狭川河口域にはミドリシャミセンガイあるいは他のシャミセンガイ属が広く分布し、しかも生息個体数も比較的多い可能性が考えられる。

シャミセンガイ類の生息域は減少しつつあると言われるが、その一方で生息域の拡大や個体数の増加の傾向があるとの指摘もある(吉松 2016)。そうした現状にあって、生体標本の採取による種の同定及び恒常的な生息の確認など今後のより詳細な調査が本海域においても待たれる次第である。

5. 引用文献

- 濱田隆士 (1975) カラー自然ガイド 生きている化石－動物－. 152pp. 保育社.
- 環境省 自然環境局 (2007) 第7回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査 (干潟調査) 報告書.
- 環境省 自然環境局. 生物多様性の観点から重要度の高い海域. URL : <http://www.env.go.jp/nature/biodic/kaiyo-hozen/kaiiki/engan/15804.html> (2018年12月1日確認)
- 小林秀司・岩塚創大・比嘉大樹・山田 遼 (2018) 岡山県玉野市番田干潟ならびに倉敷市高洲干潟で採集されたシャミセンガイ. *Naturalistae*, 22 : 67-72.
- 倉持卓司・木村キワ・藤本和恵 (2001) 日本周辺海域産シャミセンガイ属の再検討. 南紀生物, 43 : 112-116.
- 倉持卓司・上野香菜子・厚井晶子・長沼 毅 (2013) 瀬戸内海から採集されたドングリシャミセンガイ (腕足動物門, 無関節綱, シャミセンガイ科) の分類学的再検討. 生物圏科学, 52 : 45-50.

- 久志本鉄平（2016）下関市千鳥浜で採取されたミドリシャミセンガイ．豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書，8：207-208.
- 吉松定昭（2016）瀬戸内海と周辺海域におけるシャミセンガイ類の生息状況に関する知見．第67回香川生物学会総会研究発表要旨，33-34.
- 吉郷英範（2004）広島県竹原市の河口干潟で確認されたウスバシャミセンガイ（腕足動物門）．比婆科学，214：1-5.